

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 動画による動作観察と対面した人間を観察する体験とのギャップを埋める  
ローコストな時空間インタラクション技術の研究
2. 個人研究者名  
濱西 夏生（東京大学大学院情報学環 特別研究員）
3. 事後評価結果

本研究では、リアルタイムに対面者の動作情報を記録し、実空間に重畳表示する情報環境を RGB カメラのみを用いて構築するためのソフトウェア技術とインタラクション環境の構築を行った。また、対面者の動作情報とのインタラクション手法や動画中の動作を実空間に重畳表示する手法を提案・設計し、プロトタイプシステムを開発し、研究室レベルで実現可能性を検証している。しかし、期間中には、提案手法の実現可能性や本課題の目標である動画からの動作習得可能性を検証するユーザスタディ等が不十分であり、研究成果を国際学会で発表するなどの計画は達成できなかった。また、知財化や社会実装に関するアウトリーチ活動も行われていない。とはいえ短縮された研究期間の中では十分な実績であり、今後の研究の展開に期待したい。